

○平成18年度奨励研究

「臓器移植に関する日本人の死生観の影響」

人間科学センター 助手 海山 宏之

医科学センター 教授 佐藤 秀郎

1. 研究目的

脳死者からの臓器移植による治療を躊躇わせるものが日本人の意識の中にあるのではないかという仮説に基づき、それを日本人の死生観・人間観に探ろうとした

2. 研究方法

茨城県内でのサンプルの無作為抽出により臓器移植への賛否・感じ方と死生観等の間の関係を、調査票による意識調査と、そこで得られたデータの統計学的処理によって考察した

3. 研究結果

有効総数238の回答が寄せられ、それぞれの設問回答を因子分析することによって次の五つの因子が移植医療に対する考えの背景に見いだされた。それは「移植医療にポジティブな意識」と、それに抑制的な「臓器の摘出、その利用に対する抵抗感」であり、また「自分の今ある生や意思を大事にしようという志向」（自我を尊重したいという考え）と「広義の宗教性」および「広義の公德心・ボランティア精神」である。

4. 考察(結論)

今回の調査で表れた脳死者からの臓器移植による治療に対する人々の意識は、まず一義的にはそれを肯定する「移植医療を肯定的に捉え、より効率的な普及を図るべきとする考え」として捉えられた。しかしそれに対して抑制的に「臓器の摘出、その利用に対する抵抗感」が明らかに存在する。そして「広義の宗教性」や「広義の公德心・ボランティア精神の表れ」が独立したものとして回答に影響する以上に、「個人・自我というものを大事にしたいという考え」が強く回答を左右していたとまとめることができる。

5. 成果の発表(学会・論文等、予定を含む)

専門誌への投稿、および今年度日本宗教学会での発表を予定している。

6. 参考文献

- 1) 松元イソ子、山内寿美、柴田恭亮、堤由美子. 看護学生の脳死・臓器移植に関する意識について：一般女子大生との比較並びに情報の追加による意識の変化. 看護教育 1993-12 ; 34-13 : 1114-1119.
- 2) 須藤俊之、佐々木弘美、坂本十一、棟方昭博. 弘前大学学生に対する脳死および臓器移植についての意識調査. 弘前医学 1998 ; 50 : 1-5.
- 3) 中西健二、平井啓、柏木哲夫. 現代青年の臓器提供意思への影響要因に関する研究. 死の臨床 1999-7 ; 22-1 : 71-75.
- 4) 溝田順子、坂之上智子、谷川和子. 若者の死生と臓器移植に関する意識調査. 人間生活科学研究 2004-3 ; 40-1 : 37-47.
- 5) 山崎裕二. 三鷹市・武蔵野市の小中学生および保護者の脳死・臓器移植に関する意識調査. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要 2001 ; 14 : 107-119.
- 6) 池口恵観. 臓器移植に関する日本人の意識構造：世代間における意識格差. 山口医学 1999 ; 48-3 : 85-101.
など